



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

2019年第48週(11/25~12/1)【概要版】

2019年12月5日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) 梅毒の年間の累計報告数が感染症法に基づく調査が始まって以来、最も多い31人に到達しました。梅毒は主に性行為によって感染しますが、発症後に一度症状が消失するため治療の遅れや感染拡大につながりやすい感染症です。性感染症の拡大を防ぐために、コンドームの使用が勧められます。
- (2) インフルエンザが先週流行期に入りました。全保健所管内で報告数が増加しています。特に、大津市保健所管内では47週と比べて2.78倍の報告があり、注意報基準値に達しました。小学生低学年に該当する年齢の患者が多く報告されています。手洗い・咳エチケット等の感染予防を心掛けてください。
- (3) 感染性胃腸炎は先週と比較しやや増加しました。大津市および東近江保健所管内で多く報告されています。
- (4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、大津市、草津、甲賀および東近江保健所管内で多く報告されています。近隣自治体では滋賀県よりも定点当たり報告数が高い値で推移しています。

2. 報告数が多かった定点把握疾患(五類感染症) (i)

(1) 滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別 (iv)						
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ	0.40	1.85	5.15		○	○	注	↑	多	↑	↑	↑	↑
感染性胃腸炎	2.77	2.87	3.29				多		↑	多	↑		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.06	1.16	1.26				多	多	多	多	↑	↑	

前週の全国および近隣府県の状況(下線: 滋賀県よりも多い)

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
インフルエンザ	<u>3.11</u>	1.85	1.21	1.64	1.49	<u>2.33</u>	0.90
感染性胃腸炎	<u>4.32</u>	2.87	<u>5.49</u>	2.86	<u>6.30</u>	2.57	2.80
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>2.55</u>	1.16	<u>2.50</u>	<u>1.79</u>	<u>2.13</u>	0.79	<u>1.82</u>



3. 全数把握疾患(滋賀県、今週診断例)

類型	疾病名	滋賀県					保健所別						
		2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	2	2	2	○		1				1		
四類	レジオネラ症	0	1	1	○			1					
五類	梅毒	1	1	1	○			1					
五類	百日咳	5	1	2	-	-	1		1				
五類	急性弛緩性麻痺	0	0	1	-	-						1	

- i. 定点把握疾患: 人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握
- ii. 警; 警報発令、注; 注意報発令
- iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)、百日咳は2018年より全数把握とされているため、本標記対象から除外
- iv. 「警; 警報開始基準値を超過」、「注; 注意報基準値に到達」、「多: 今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑: 前週比増加」(「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記)

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

2019年第48週(11/25~12/1)【詳細版】

2019年12月5日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) 梅毒の年間の累計報告数が感染症法に基づく調査が始まって以来、最も多い31人に到達しました。梅毒は主に性行為によって感染しますが、発症後に一度症状が消失するため治療の遅れや感染拡大につながりやすい感染症です。性感染症の拡大を防ぐために、コンドームの使用が勧められます。
- (2) インフルエンザが先週流行期に入りました。全保健所管内で報告数が増加しています。特に、大津市保健所管内では47週と比べて2.78倍の報告があり、注意報基準値に達しました。小学生低学年に該当する年齢の患者が多く報告されています。手洗い・咳エチケット等の感染予防を心掛けてください。
- (3) 感染性胃腸炎は先週と比較しやや増加しました。大津市および東近江保健所管内で多く報告されています。
- (4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、大津市、草津、甲賀および東近江保健所管内で多く報告されています。近隣自治体では滋賀県よりも定点当たり報告数が高い値で推移しています。

2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数(全国は前週の値) i, ii, iii, iv

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県						保健所別 (iv)						全国 (前週) (iv)	基準値			
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜		高島	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:52)	インフルエンザ	0.40	1.85	5.15		○	○	12.91	1.90	6.57	4.25	0.43	2.50	3.00	3.11	30	10	10
	RSウイルス感染症	0.45	0.65	0.39				0.29	0.50	0	1.20	0	0	0.50	0.51	—	—	—
	咽頭結膜熱	0.32	0.32	0.29		○		0.14	0.83	0	0.60	0	0	0	0.55	3	1	—
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.06	1.16	1.26				1.43	1.83	1.50	1.80	0.25	0.67	0	2.55	8	4	—
	感染性胃腸炎	2.77	2.87	3.29				5.71	0.67	1.75	6.80	3.25	0.33	1.50	4.32	20	12	—
	水痘	0.35	0.35	0.65		○		0.29	0.50	2.00	0.20	0.25	0	2.50	0.44	2	1	1
	手足口病	0.26	0.35	0.29				0	0.17	1.00	0	0.50	0	1.00	1.06	5	2	—
	伝染性紅斑	0.94	0.58	0.58		○	○	0.14	0.83	1.00	1.00	0.50	0	0.50	0.55	2	1	—
	突発性発しん	0.13	0.19	0.13				0.14	0	0.50	0.20	0	0	0	0.35	—	—	—
小児科 (定点数:31)	ヘルパンギーナ	0.29	0.19	0.42		○	○	0	0.50	0	0.80	0	0	3.00	0.14	6	2	—
	流行性耳下腺炎	0	0.16	0.06				0.29	0	0	0	0	0	0.07	6	2	3	
	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.01	1	0.1	—	
	流行性角結膜炎	0.13	0	0.13				0	0	0	0	0	0	1.00	0.50	8	4	—
	眼科 (定点数:8)	細菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.01	—	—	—
		無菌性髄膜炎	0	0	0.14		○		1.00	0	0	0	0	0	0.03	—	—	—
		マイコプラズマ肺炎	0.29	0.14	0.29		○		1.00	1.00	0	0	0	0	0.51	—	—	—
		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.00	—	—	—
		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0.01	—	—	—
基幹 (定点数:7)	インフルエンザ (入院例に限る)	0	0.14	0.43		○		2.00	0	0	0	0	0	1.00	0.32	—	—	—

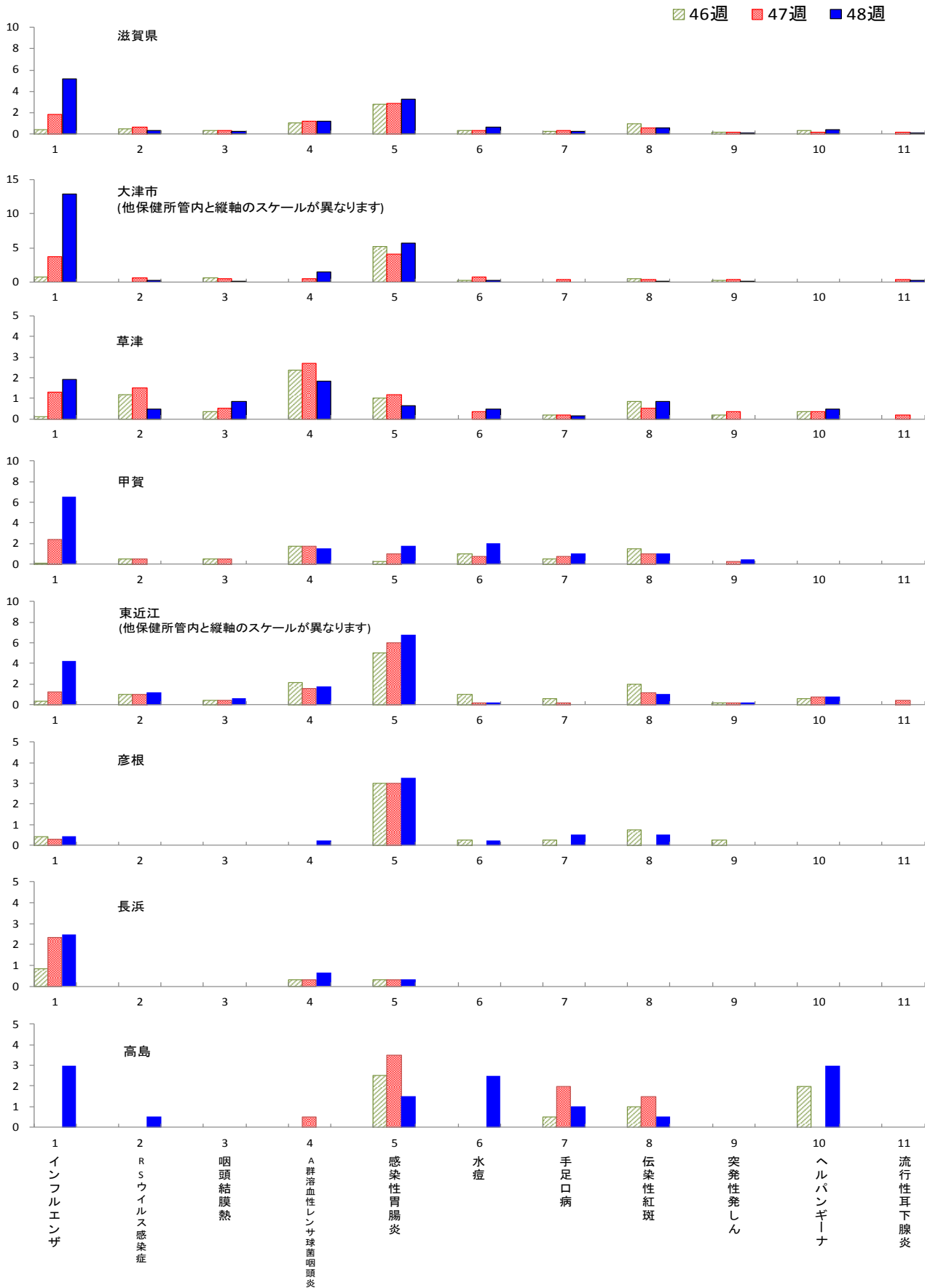
i 定点把握疾患:人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。

ii 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。

iii 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)

iv **赤字斜字**:警報開始基準値を超過、**紫字斜字**:注意報基準値に到達

3. 定点把握疾患(五類感染症)の保健所別推移(滋賀県、今週と過去2週、縦軸;定点当たり報告数)



4. 定点把握疾患(五類感染症)の年齢階級別報告数 (滋賀県、今週)

インフルエンザ定点 (53医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	268	1	-	4	7	4	6	19	25	28	45	19	46	7	9	10	20	8	6	2	2
大津市保健所	142	-	-	1	5	1	3	8	8	16	31	14	29	3	3	6	9	3	1	1	-
草津保健所	19	1	-	1	1	2	1	1	2	-	-	-	4	-	2	-	2	2	-	-	-
甲賀保健所	46	-	-	1	-	-	1	2	2	5	8	4	9	-	1	4	2	-	4	1	2
東近江保健所	34	-	-	1	1	1	1	3	12	4	1	1	4	1	1	-	1	2	-	-	-
彦根保健所	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
長浜保健所	15	-	-	-	-	-	-	1	-	1	5	-	-	1	2	-	4	-	1	-	-
高島保健所	9	-	-	-	-	-	-	4	1	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-

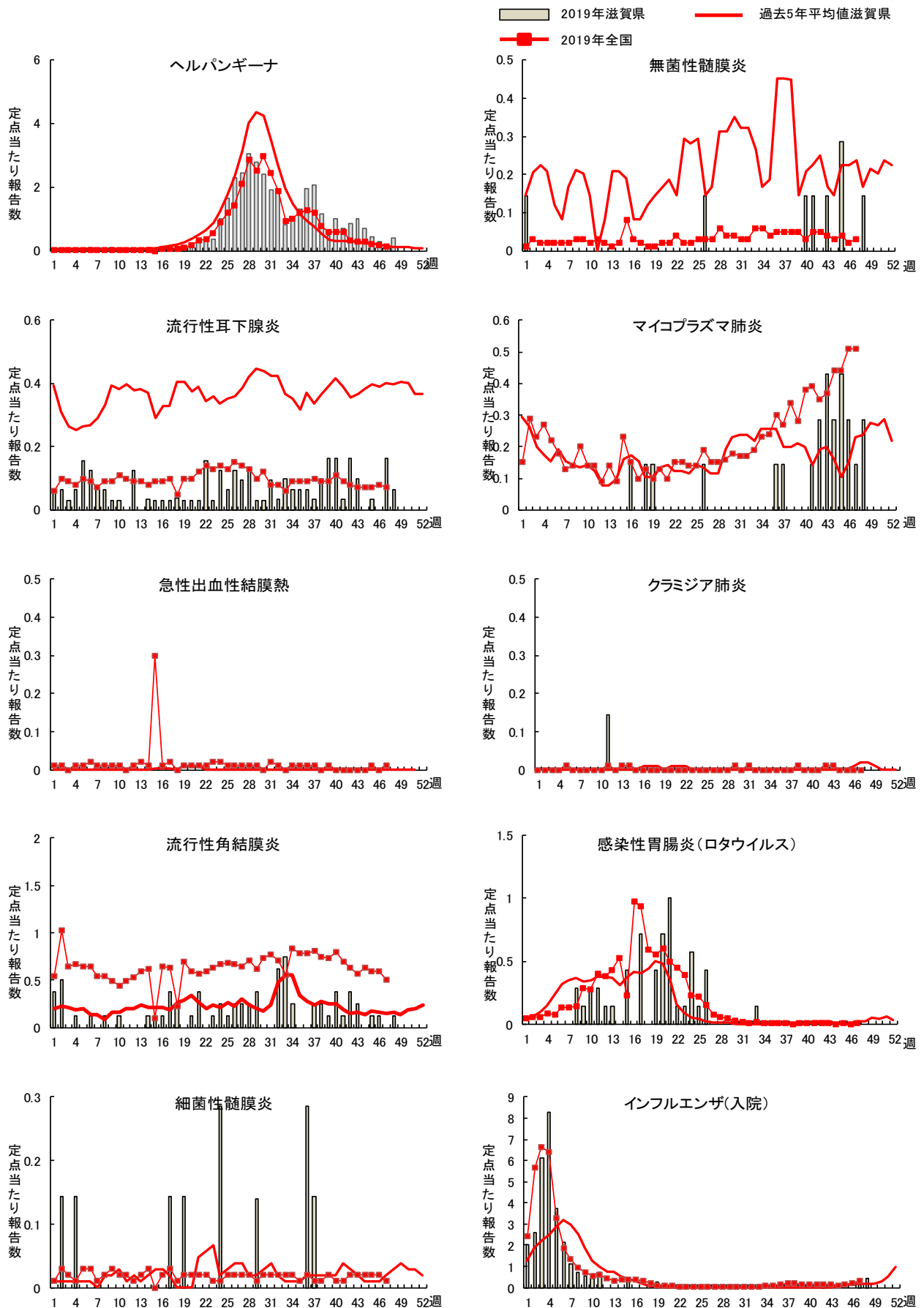
小児科定点 (32医療機関)	総数	0～5ヶ月	5～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	12	1	4	3	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	9	1	-	1	2	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	1	-	4	12	2	3	9	3	-	5	-	-
感染性胃腸炎	102	-	5	10	7	13	13	4	10	6	4	8	10	-	12
水痘	20	-	2	-	-	1	-	1	6	2	4	1	2	1	-
手足口病	9	-	1	-	3	2	2	-	-	-	-	1	-	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	18	-	-	-	2	1	3	2	3	2	2	3	-	-	-
突発性発しん	4	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	-	-	2	1	1	3	1	2	1	1	1	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

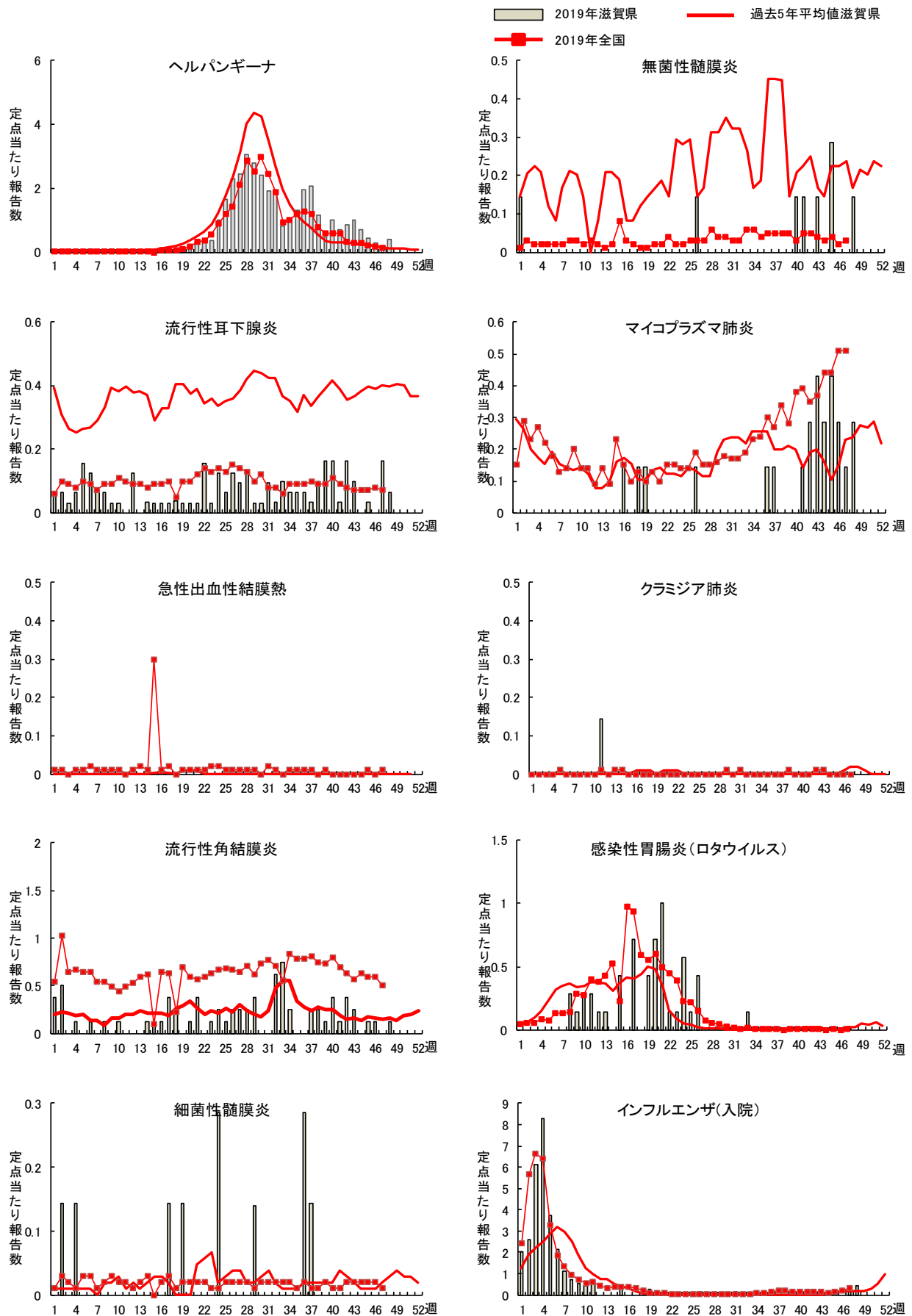
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向(全国は前週まで掲載)



5-2. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向(全国は前週まで掲載)



6. 全数把握疾患 詳細情報(今週報告例) ^v

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	48	大津市	80歳代	女	肺結核	不明	-
	結核	48	彦根	70歳代	男	-	彦根保健所管内	-
四類	レジオネラ症	48	草津	70歳代	男	肺炎型	草津保健所管内	-
五類	急性弛緩性麻痺	48	長浜	10歳代	男	病原体不明	不明	-
	梅毒	48	草津	10歳代	男	無症状病原体保有者	不明	-
	百日咳	48	大津市	10歳未満	女	-	大津市保健所管内	ワクチン4回接種
	百日咳	48	甲賀	40歳代	女	-	甲賀保健所管内	ワクチン接種歴なし

注目すべき感染症

1. インフルエンザ関連

- (1) インフルエンザ様疾患発生報告(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>
- (2) インフルエンザ流行レベルマップ(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>
- (3) 抗インフルエンザ薬耐性株の検出と性状(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2471-related-articles/related-articles-477/9229-477r02.html>

2. 梅毒関連

- (1) 梅毒とは?(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html
- (2) 日本の梅毒症例の動向について
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-trend.html>

3. ノロウイルス関連

- (1) ノロウイルス Q&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html
- (2) 食中毒注意報の発令中(生活衛生課)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/syokunoanzen/16540.html>

7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別(2019 年、全国は前週までの値) ^{vi,vii}

^v 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

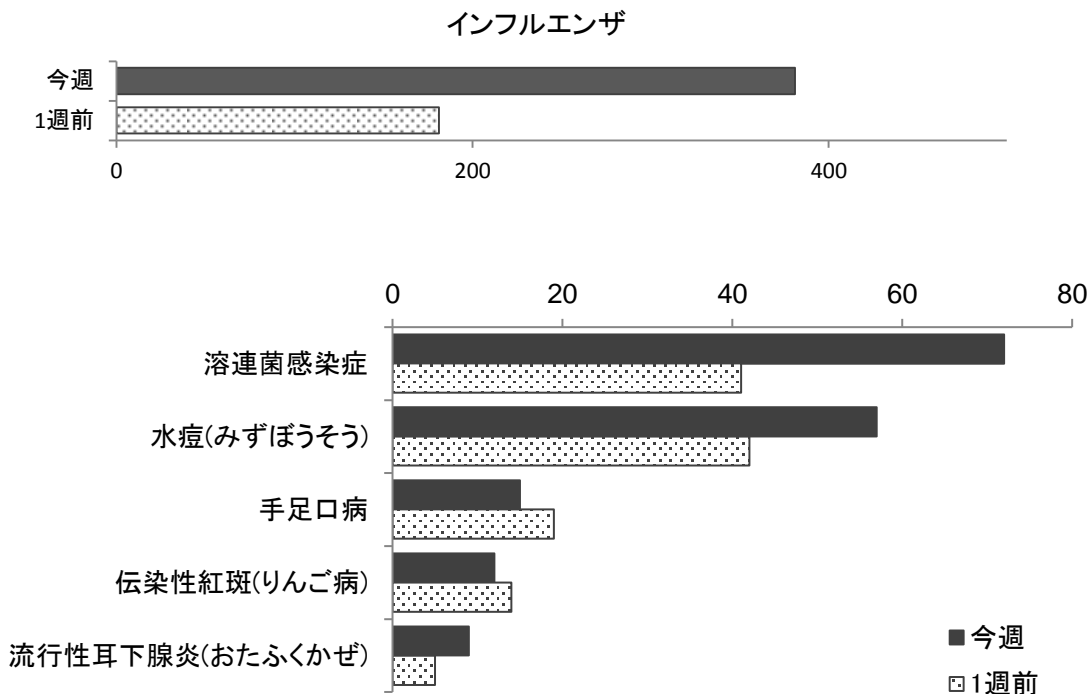
疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国 (前週)	昨年累積報告数	
	例年より 多い	例年より 非常に多い	累積 報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島		滋賀県	全国
二類 結核	○		225 15.92	87 25.50	36 10.61	18 12.48	34 14.87	20 12.82	23 14.86	7 14.39	19062 15.02	235 16.63	21850 17.21
三類 細菌性赤痢			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	101 0.08	2 0.14	268 0.21
腸管出血性大腸菌感染症	○		68 4.81	7 2.05	48 14.14	5 3.47	4 1.75	1 0.64	2 1.29	1 2.06	3545 2.80	30 2.12	3844 3.03
四類 E型肝炎	○		1 0.07	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	442 0.35	2 0.14	442 0.35
A型肝炎			2 0.14	0 0	1 0.29	1 0.69	0 0	0 0	0 0	0 0	404 0.32	1 0.07	925 0.73
重症熱性 血小板減少症候群			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	96 0.08	0 0	77 0.06
チクングニア熱			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	45 0.04	0 0	4 0.00
つつが虫病			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	173 0.14	1 0.07	455 0.36
デング熱			1 0.07	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	433 0.34	0 0	201 0.16
日本紅斑熱	○	○	2 0.14	0 0	0 0	0 0	2 0.87	0 0	0 0	0 0	303 0.24	0 0	303 0.24
レジオネラ症	○		24 1.70	2 0.59	6 1.77	0 0	6 2.62	2 1.28	6 3.88	2 4.11	2148 1.69	33 2.34	2130 1.68
五類 アメーバ赤痢	○		9 0.64	5 1.47	4 1.18	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	767 0.60	5 0.35	838 0.66
ウイルス性肝炎			2 0.14	2 0.59	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	301 0.24	1 0.07	269 0.21
カルバペネム耐性 腸内細菌感染症			6 0.42	0 0	6 1.77	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2034 1.60	11 0.78	2253 1.77
急性弛緩性麻痺	-	-	1 0.07	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	70 0.06	1 0.07	139 0.11
急性脳炎			2 0.14	0 0	2 0.59	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	771 0.61	4 0.28	657 0.52
クリプトスポリジウム症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	19 0.01	0 0	25 0.02
クロイツフェルト・ヤコブ病	○		3 0.21	0 0	0 0	2 1.39	0 0	0 0	1 0.65	0 0	175 0.14	6 0.42	219 0.17
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症			8 0.57	1 0.29	1 0.29	1 0.69	3 1.31	0 0	2 1.29	0 0	822 0.65	10 0.71	687 0.54
後天性免疫不全症候群	○	○	11 0.78	6 1.76	2 0.59	1 0.69	1 0.44	1 0.64	0 0	0 0	1083 0.85	10 0.71	1292 1.02
ジアルジア症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	45 0.04	0 0.00	68 0.05
侵襲性 インフルエンザ菌感染症	○	○	8 0.57	2 0.59	2 0.59	0 0	3 1.31	1 0.64	0 0	0 0	486 0.38	7 0.50	483 0.38
侵襲性髄膜炎菌感染症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	45 0.04	0 0	37 0.03
侵襲性肺炎球菌感染症			24 1.70	5 1.47	7 2.06	3 2.08	5 2.19	3 1.92	1 0.65	0 0	2856 2.25	41 2.90	3299 2.60
水痘(入院例)			2 0.14	1 0.29	1 0.29	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	429 0.34	5 0.35	461 0.36
先天性風しん症候群			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0	0 0
梅毒	○		31 2.19	13 3.81	4 1.18	2 1.39	11 4.81	0 0	1 0.65	0 0	5957 4.69	24 1.70	6923 5.45
播種性クリプトコックス症			1 0.07	1 0.29	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	138 0.11	2 0.14	178 0.14
破傷風			1 0.07	1 0.29	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	114 0.09	0 0	130 0.10
バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	○		1 0.07	0 0	0 0	0 0	1 0.44	0 0	0 0	0 0	71 0.06	2 0.14	79 0.06
百日咳	-	-	129 9.13	83 24.33	8 2.36	8 5.54	11 4.81	6 3.84	8 5.17	5 10.28	15523 12.23	141 9.98	11947 9.41
風しん	○		7 0.50	3 0.88	2 0.59	1 0.69	1 0.44	0 0	0 0	0 0	2266 1.79	12 0.85	2917 2.30
麻しん	○	○	9 0.64	1 0.29	3 0.88	2 1.39	0 0	0 0	3 1.94	0 0	737 0.58	1 0.07	282 0.22
薬剤耐性 アシネトバクター感染症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	24 0.02	0 0	24 0.02

vi 今年第 1 週以降に診断された感染症の累計報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に今年の「累積報告数」、下段に「人口 10 万人当たりの累積報告数」を記しています。

vii 今年と過去 5 年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)概況(滋賀県、今週)

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム (https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php)へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



【全国情報】 国立感染症研究所 感染症疫学センターHPに掲載されています。

- 感染症発生動向調査 週報(IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>
- 病原微生物検出情報(IASR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>
- インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】 厚生労働省 HP に掲載されています。

- 感染症法に基づく医師の届出のお願い
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

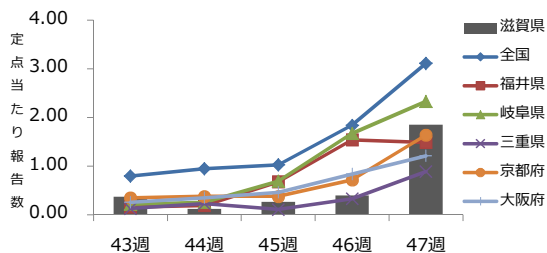
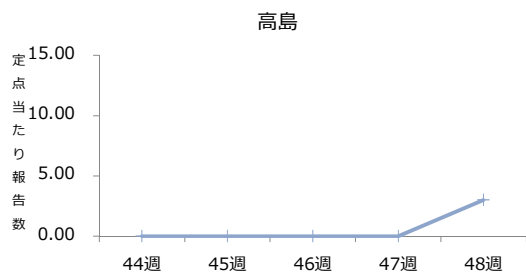
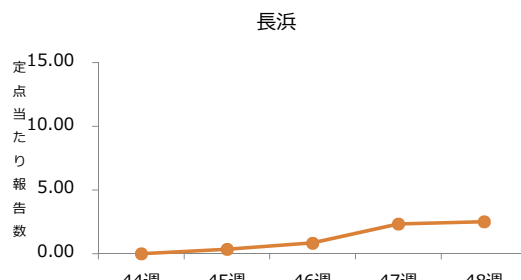
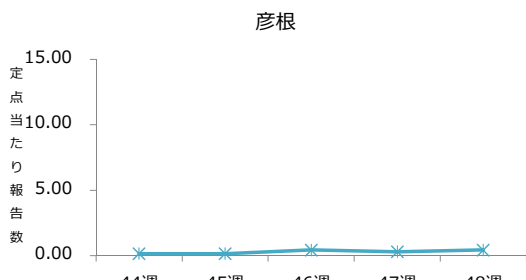
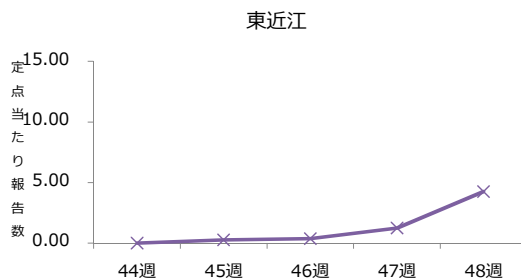
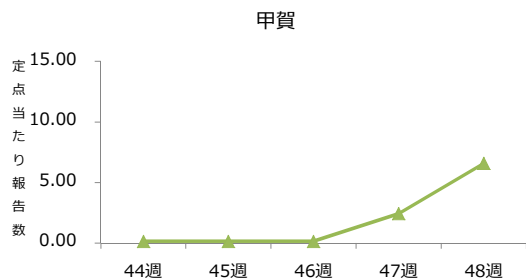
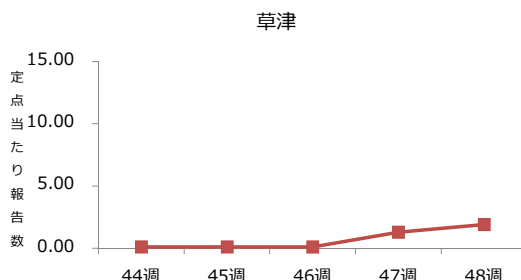
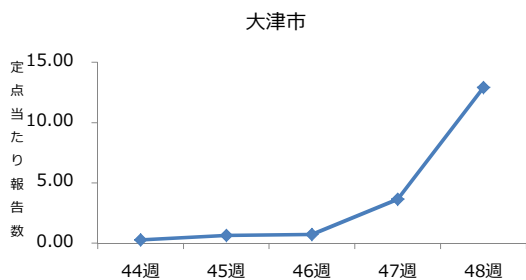
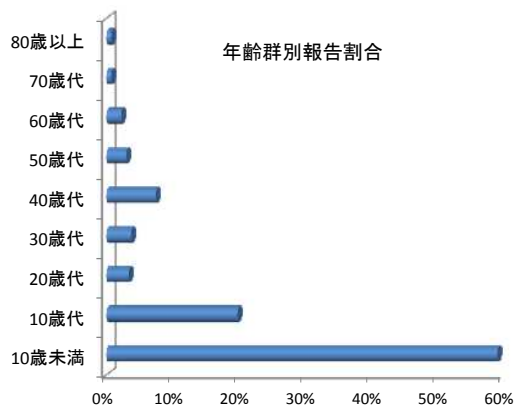
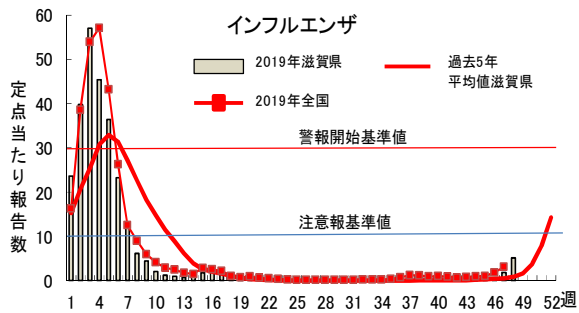
滋賀県感染症情報センターHP

<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/info/300857.html>

イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」



インフルエンザの発生動向 2019年48週 滋賀県



滋賀県の梅毒の発生動向 2019年第1-48週

1. 2019年第48週までの報告数（31例）は、感染症法が施行された1999年以降で最も多かった2016年（30例）を超えた（図1）。
2. 男性は20－50歳代、女性は20-30歳代に多い（図2）。
3. 男性と女性ともに推定感染経路における異性間性的接触が多い（図3）。
4. 大津市、東近江保健所管内において、特に多く報告されている。
5. 少なくとも2006年以降に先天性梅毒の報告はなかったが、2018年に1例報告されている。

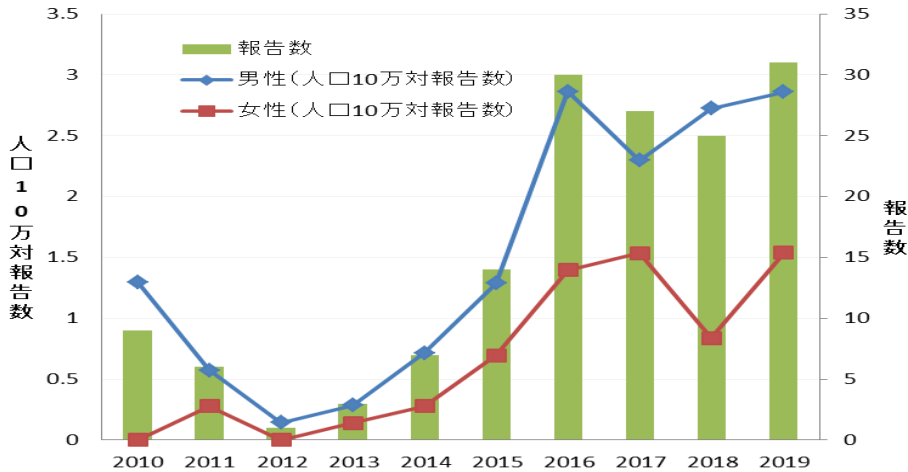


図1. 梅毒の発生動向（滋賀県、2010年第1週-2019年48週）

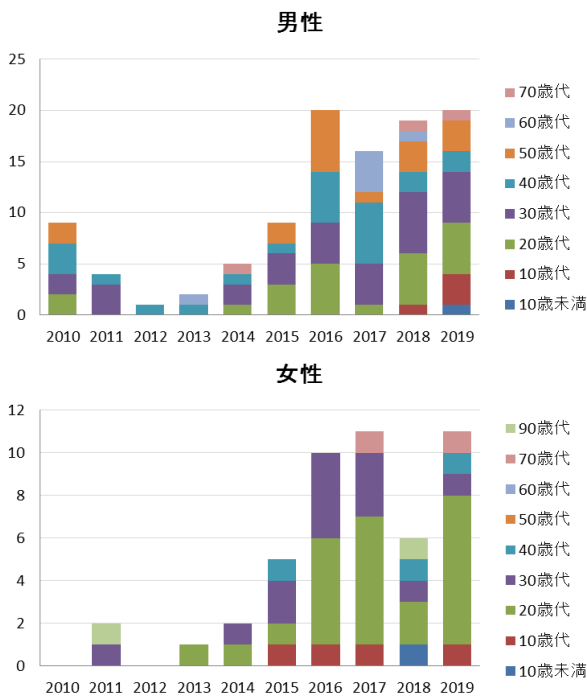


図2. 梅毒の年齢群別報告数（滋賀県、2010年第1週-2019年48週）

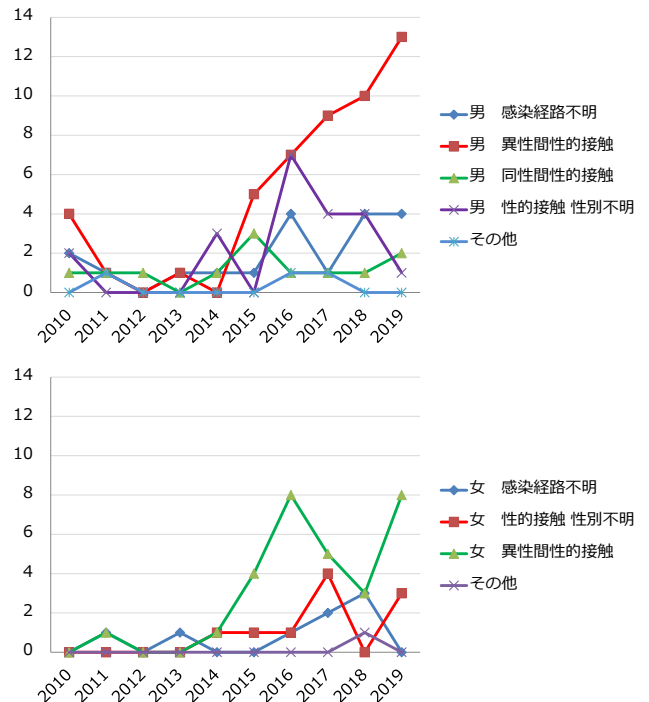


図3. 梅毒の感染経路別報告数（滋賀県、2010年第1週-2019年48週）